

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円は調整一巡後に再び上昇か

[1月10日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	1月3日～1月7日			
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	115.08	116.35(4)	114.95(3)	115.93 +0.85
ユーロ・ドル	1.1356	1.1379(3)	1.1272(4)	1.1302 -0.0068
=====				
国内株・金利/米国株・金利	終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	28,478.56	-313.15	日本10年債利回り	0.132 +0.061
ダウ平均株価	36,236.47	-101.83	米10年債利回り	1.721 +0.211

<来週の主要経済統計等>

- 10日 豪11月住宅建設許可件数  
ユーロ圏11月雇用統計
- 11日 豪11月小売売上高、豪11月貿易収支  
日本11月景気動向指速報値  
パウエルFRB議長の再任指名承認公聴会
- 12日 日本11月経常収支  
中国12月消費者物価指数  
ユーロ圏11月鉱工業生産指数  
米12月消費者物価指数  
米12月財政収支
- 13日 米12月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数  
ブレイナードFRB理事の副議長指名承認公聴会
- 14日 中国12月貿易収支  
英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支  
ユーロ圏11月貿易収支  
米12月小売売上高、米12月輸入価格指数  
米12月鉱工業生産・設備稼働率  
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米雇用統計を含めて、年明けの米経済指標が好調なら利上げ前倒し観測の高まりなどから、ドル円は115円台に乗せて堅調な推移を見せることとなりそうだ。米国の物価の高止まりなどから、大きな崩れは見込みにくく、底堅い動きになるとした。

【FOMC議事要旨は予想よりもタカ派的な内容】

年明けに米国株の上昇などを背景にリスク選好の動きとなり、米長期金利の上昇などもあって、ドル円は4日に5年ぶりに116円台に乗せた。短期間で大きく上昇してきたこともあり、テクニカル的には過熱感も生じて、その後は伸び悩みを見せている。

米国や英国、ユーロ圏など主要国では量的緩和策の終了や利上げに動くといった金融正常化に向けて動いている。一方で、日銀は引き続き金融緩和策を継続しており、こうした金融当局のスタンスの違いが円が売られやすい一因となっている。

そうした中、最も注目されるのが金融緩和策からの出口戦略を描く米連邦準備制度理事会(FRB)の動向となる。12月14～15日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では、労働需給がタイトであり、高いインフレ率への対応などが

ら、予想よりも早期の利上げや保有資産（バランスシート）の縮小が必要になる可能性があるとの見解が示された。

一部の参加者が「利上げ開始後の早い時期にバランスシートの縮小を始めるのが適切」と指摘していたことも明らかになった。早期のバランスシート縮小に言及したこと、金融正常化へのスピードが加速するとの見方が広がっている。

米連邦準備制度理事会（FRB）が市場の想定よりも速いペースで金融正常化を進めるとの見方から、5日の米10年債利回りは1.705%前後まで上昇した。金利上昇を嫌気して、5日のNYダウは392ドル安となり、ナスダックは3.34%安と急落した。なお、翌6日も米10年債利回りは1.72%台まで上昇、米国株は続落となった。

米長期金利の上昇を受けて、ドル円は底堅い動きを見せている。ただ、これまでに上昇基調で推移してきた116円台まで上昇しており、一段と上値を伸ばすには至らなかった。ドル円は高値警戒感もあり、上値を抑えられているものの、テクニカル面での調整一巡後は再び上昇に転じるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、114.75～117.00円。

波乱要因となるのが新型コロナウイルスの感染者数の動向となる。日本では感染者数の絶対数は少ないものの、徐々に感染者数が増加傾向にある。海外では感染者数は引き続き増加している。オミクロン株の感染拡大に伴い、米国では3日の新規感染者数が100万人を突破した。ただ、オミクロン株は感染力が強いものの、重症化リスクは高いとの報道も多く、主要国の金融市場へ大きなダメージとはなっていない。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本11月景気動向指速報値、12日に日本11月経常収支、米12月消費者物価指数、米12月財政収支、13日に米12月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、14日に米12月小売売上高、米12月輸入価格指数、米12月鉱工業生産・設備稼働率、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

#### 【ユーロドルはレンジ相場が継続か】

ユーロドルは昨年末にユーロ買いの動きなどから1.1380台まで上昇したものの、年明け以降は米長期金利の上昇などにより、1.1270近辺まで下落するなど上値の重い動きを見せている。昨年12月以降は1.12～1.13台のレンジ内で一進一退の動きを継続している。

ユーロドルは1.13ドル台半ばより上の水準では上値を抑えられやすい展開が続いている。一方で、1.12台半ばから後半では買いに支えられやすくなるなど、一方向にトレンドが出にくい動きとなっている。こうした中、ユーロドルはレンジ相場が継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1200～1.1400ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、10日に豪11月住宅建設許可件数、ユーロ圏11月雇用統計、11日 豪11月小売売上高、豪11月貿易収支、12日に中国12月消費者物価指数、ユーロ圏11月鉱工業生産指数、14日に中国12月貿易収支、英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支、ユーロ圏11月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等

することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。